



来年以降に向けて

国際森林年の取組を活発に進めるべく設けられた国内委員会は、昨年12月から今年10月までの間に4回の会合を重ねてきました。

各界の著名人から森林年の取組が盛り上がり、かつ有効な活動となるよう幅広い意見が出されるところにも、来年以降も継続した活動となるよう委員会からメッセージが出されました。

国際森林年国内委員会委員 (50首順、敬称略)



秋山 耿太郎



赤池 学



飯塚 昌男



天野 礼子



井上 篤博



出井 伸之



草野 満代



大久保 尚武



佐々木 毅



坂本 龍一



多田 欣一



C. W. ニコル



沼田 早苗



仁坂 吉伸



広瀬 道貞



速水 亨



三村 明夫



宝月 岱造



宮林 茂幸



養老 孟司

座長に佐々木毅氏(国土緑化推進機構理事長)を選出して始まった第1回会合では、各委員から、自らの生い立ちや経験をを通じて、森への思いが語られ、木づかい、人と森や木の密接なかわり、林業の再生などについてその必要性、大切さを訴える意見が出されました。

また、国内テーマには、『森を歩く』をメインに、本誌表紙に記載の二つのサブテーマに決まりました。(『RINYA 1月号』参照)

●震災を踏まえて
3月の東日本大震災の発生を踏まえ、第2回国内委員会は、国際森林年が震災復興に役立つような取組にもチカラを注ぐべきとの意見でまとまりました。その後、海岸再生のシンポジウム、木造仮設住宅の効果を理解できるイベント等森や木に関する多くの取組が行われました。(『RINYA 4月号』参照)

●「森を歩く」の実践
第1回会合での自ら「森を歩く」を実践すべきとの意見を受け、第3回会合は、長野県信濃町内アファンの森で開催。森に囲まれた木造施設で国民向けのメッセージ案を練り、実際に森を歩き、森の恵みを楽しみました。(『RINYA 9月号』参照)

国内委員会開催状況

第1回(平成22年12月16日)	＜於：農林水産省内＞ ・国際森林年の取組方向、国内テーマを議論
第2回(平成23年4月14日)	＜於：農林水産省内＞ ・震災復興に役立てる国際森林年の取組を議論
第3回(平成23年8月3日)	＜於：長野県信濃町＞ ・国際森林年の取組状況を事務局から報告 ・国内委員会からの国民向けのメッセージを議論 ・国内委員自ら「森を歩く」を実践
第4回(平成23年10月14日)	＜於：農林水産省内＞ ・国内委員会からの国民向けのメッセージ及び行動提案を議論・発出

●来年以降につながる活動を！
第3回会合の意見を踏まえた第4回では、国際森林年以降も引き続いて、今年向けのメッセージ行動提案が議論され、10月24日に発出されました。

メッセージ
森のチカラで、
日本を元気に。

このメッセージは、緑豊かな美しい国土を次世代に残し、いつまでもその恵みを享受し続けるために国民一人一人が将来的に森林の重要性を認識していくことを願うものです。

また、林業に携わる人を含めた地域住民や都市住民、産業界、行政や関連団体など全ての人に、メッセージと併せて、具体的な行動を普段にとっていただければ、次のような提案が行われました。

●プレスリリース
<http://www.rinya.maff.go.jp/press/kaigai/11024.html>